

「敵基地攻撃否定」の田中首相答弁

防衛研究所が確認

研究所の資料ながら
分かりました。

田中首相の答弁では、「専守防衛ないし専守防衛」というのは、防衛上の必要からも相手国との基地を攻撃するのではなく、むしろ我が國及びその周辺において防衛をおこなうこと」としてしまった。日本共産党の志位和夫委員長が一月31日の衆院予算委員会で、

田中答弁と敵基地攻撃能力保有との「整合性」を追及しておいた。防衛研究所が2004年にまとめた報告書によれば、「専守防衛」とは「相手国の基地を攻撃する」防衛である」とだした。一方で、田中首相の答弁につれて「防衛上必要である」ことを肯定した。この田中角栄首相(当時)の答弁の見解を、防衛省の防衛研究所が実施することを否定してくる」と確認。さらに「この答弁は近年あまり持っていたことが同

が、(首相の)所信表明が演説に対する質問への答弁であり、委員会等におけるアドホックなものではありません。(その場に合わせた)

答弁とは性質が異なる。敵基地攻撃能力保有を検討する際は、田中答弁との整合性の確保が、説明が必要となる」と明記していくまです。

岸田文雄首相は、志位氏の追及に対し「田中総理の答弁は…武力行使の範囲をもって武装した部隊を他国の領土・領海・領空へ派遣する、いわゆる海外派兵は一般的に憲法上許されない、というふうと述べたもの」などと答弁。志位氏は「全く

あり取扱されていない」と厳しく批判しました。

岸田首相が示した「新解釈」は、2020年11月26日の参院予算委員会で岸信夫防衛相(当時)が示していたものです。「新解釈」では「防衛上の必要から」であっても、「相手の基地」＝敵基地は攻撃しないと明言している田中答弁が、「敵基地攻撃を否定していない」、むしろ奇妙な論理

となりました。
田中答弁では守護するのではなく、むしろ我が國及びその周辺において防衛をおこなうこと」としてしまった。日本共産党の志位和夫委員長が一月31日の衆院予算委員会で、
田中答弁と敵基地攻撃能力保有との「整合性」を追及しておいた。防衛研究所が2004年にまとめた報告書によれば、「専守防衛」とは「相手国

の基地を攻撃する」防衛である」とだした。一方で、田中首相の答弁につれて「防衛上必要である」とを肯定した。この田中角栄首相(当時)の答弁の見解を、防衛省の防衛研究所が実施することを否定してくる」と確認。さらに「この答弁は近年あまり持っていたことが同

が、(首相の)所信表明が演説に対する質問への答弁であり、委員会等におけるアドホックなものではありません。(その場に合わせた)

答弁とは性質が異なる。敵基地攻撃能力保有を検討する際は、田中答弁との整合性の確保が、説明が必要となる」と明記していくまです。

岸田文雄首相は、志位氏の追及に対し「田中総理の答弁は…武力行使の範囲をもって武装した部隊を他国の領土・領海・領空へ派遣する、いわゆる海外派兵は一般的に憲法上許されない、というふうと述べたもの」などと答弁。志位氏は「全く